

平成 22 年度 長野県松本筑摩高等学校 定時制 午前部・午後部 学校評価表

定時制午前部・午後部教育目標		重点目標（中長期的目標）		総合評価		
定時制の特色と単位制の趣旨とを活かして、様々な「学び直し」を願い、未来を拓こうとする生徒・保護者に添うとともに、地域に開かれた教育を行う。		定時制の特性を活かした単位制の充実を図るとともに、様々な実態把握に努めながら、生徒が個に応じた学力と社会的習慣とを身につけ、よりよい学校生活を送れるようにする。				
		今年度の重点目標				
		1. 生徒一人ひとりの資質・能力の伸長 2. 他を思いやる豊かな心の育成 3. 社会力の育成 4. 基礎学力定着のための授業改善 5. 教育課程の工夫・改善 6. 特別支援教育の充実		成果と課題	評価	改善策・向上策
領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
育	教育課程	開講科目の充実	工夫・改善に努め、生徒・保護者の願いを踏まえた講座の設定、および編成ができたか。			
	学習指導	基礎・基本の定着	可能な限りの教科・講座で習熟度別授業を展開するなどして、基礎学力の定着に向けた指導ができたか。生徒による授業評価を活用し、授業改善ができたか。			
		個に即した指導	必要とする学力を個に即して着けようとする指導ができたか。			
	生徒指導	目指す人間像を共有した指導	全校集会や保護者向け通信を通じて、「他人を想像する心」の自覚が高まる事前指導が充実したか。			
		一人の生徒に複数の教師の目を向ける指導	年次会・職員相互で連携できたか。不登校生徒などへの対応では、外部専門家などと連携できたか。			
		整理整頓	貴重品など、私物を自己管理する習慣がついたか。			
	特別支援教育	発達障害支援専門員との連携	支援を必要とする生徒の実態把握、保護者との共通理解、学習支援、進路相談等に専門員の指導・助言を活用できたか。			
		特別支援のハンドブックの活用	本校独自のハンドブックやシリーズ第3集を活用しながら、個別の支援計画を作成し、チームでの支援ができたか。			
		職員研修の企画・実施	発達障害や特別支援教育に関する研修で、支援に活かせる知識・理解を深め、教職員が共通理解のもとに生徒にあたれたか。			
		コーディネーター養成研修	年3回の養成研修講座に課題をもって参加し、全職員へ報告できたか。			
活	進路指導	望ましい職業観・勤労観の育成と進路意識の高揚	卒業までを見通した進路ガイダンスを充実させることができたか。進路希望を実現させるための科目選択や履修指導ができたか。面談、適性検査を通して職業選択できる指導ができたか。			
		進学指導の充実	定時制ハンドブックを使い、LHRや年次別ガイダンスを充実させ指導できたか。進路指導室の各種情報誌・情報端末利用、説明会などで生徒ひとりひとりに行き届いた指導ができたか。			
		就職指導の充実	総合学習やホームルームの進路学習の時間を有効に使用し、各自の進路に対する意識を高めることができたか。進路実現にむけ適宜、講習、補習、面接指導ができたか。			
動	生徒会活動	委員会活動の充実	より多くの生徒が委員会活動に加わることができたか。委員会への出席率が高められたか。			
		部活動の充実	多くの生徒が部活動に加わることができたか。部活動への加入がすすめられたか。長い見通しに立って部活動のあり方を検討できたか。			
		くれき野祭の充実	本校に合った独自のスタイルを創り出すことができたか。生徒の力で実行することができたか。			
学 校 運 営	地域との連携	公開授業・学校説明会の充実と	公開授業をさらに推進するとともに、充実した学校説明会を行ったか。			
		社会人聴講生の受け入れ	地域や社会に開かれた学校作りを進めるとともに、社会人の学習機会拡大を企図した講座を設定し、生涯学習の場を提供できたか。			
	組織の運営	単位制の一層の充実	「内規集」および「定時制ハンドブック」を全面的に見直すとともに、有効な活用ができたか。			
		校務分掌の検討	仕事の分担は適正だったか。意見を総括する中で、協力体制を確立できたか。			
研 修	カウンセリング研修	不登校生徒などへの共通理解を持つことができたか。上記生徒へ適切に対応するための研修ができたか。				
	授業法の研修	学習指導に関する研修の必要性を共有し、機会を設定したか。校内授業公開を実施し、学習指導の研究に活用できたか。				